

# 耕土 興論

エッセー・時評

20世紀初頭にフランスを中心として起こった前衛芸術運動あるいは画派をキュビズム(立体派)という。ピカソやブラック、レジエなどが有名だ。ところが「ダダイズム」(以後ダダ)となると、あの「泉(噴水)」と題した男性用便器を横に並べただけの作品を思い起こすかも知れない。作者はマルセル・デュシャン。近年の研究では、デュシャンの作品の多くは別人のものだとされるが、ここでは詳細に触れない。

いずれにしても、便器を作品とするその時代性こそ注目する必要がある。ダダは1916年にスイスのチューリヒで始まり、その後、ニューヨーク、パリで開花。他にベ

## マッド・アマノ パロディスト



### ヒトラーが嫌った「ダダ」って何？

存在の父だったが、既存の権力に対する反抗心

ルリン、ケルンなど世界中の都市で流行した。

ダダは現代資本主義の論理、理性、美学を否定した芸術家たちが中心になって展開された。これまでの伝統的な美術様式に沿った美学をダダは無視した。この運動は後の芸術運動やシュールレアリスム(超現実主義)、ポップアートなどのグループに影響を与えた。

ダダを心底嫌い、弾圧したアドルフ・ヒトラーの存在を抜きにしてダダを語ることはできない。ヒトラーはダダを理解できなかった。そればかりではない。近代美術を担っていた芸術家や画商にユダヤ人が多かった点も気に入らなかつた。

ヒトラーは「退廃芸術」と名付けて弾圧を始めた。退廃芸術家に指定された人たちの活動は制限された。5000点以上の作品が押収され、焼却処分された。

ナチスがポーランドに侵攻する2年前の37年にミュンヘンで『退廃芸術展』というタイトルで展示され、各作品をあざけるような解説文を付けて全国で巡回展を開催し、ダダなどの作品がいかに墮落したものかを国民に植えつけた。

ダダを心底嫌い、弾圧したアドルフ・ヒトラーの存在を抜きにしてダダを語ることはできない。ヒトラーはダダを理解できなかった。そればかりではない。近代美術を担っていた芸術家や画商にユダヤ人が多かった点も気に入らなかつた。

ヒトラーは「退廃芸術」と名付けて弾圧を始めた。退廃芸術家に指定された人たちの活動は制限された。5000点以上の作品が押収され、焼却処分された。

ナチスがポーランドに侵攻する2年前の37年にミュンヘンで『退廃芸術展』というタイトルで展示され、各作品をあざけるような解説文を付けて全国で巡回展を開催し、ダダなどの作品がいかに墮落したものかを国民に植えつけた。

当時、写真の技術が発展し、フォト・モンタージュ



まっど・あまの 本名は天野正之氏。1939年東京生まれ。東京芸大卒。写真週刊誌「FOCUS」に創刊から休刊まで20年間約1000回パロディー作品を連載した。著書に「謝罪の品格」「原発のカラクリ」など。「風刺が冒険か」をテーマに表現の本質を訴える。ユーチューブ「マッド・アマノ・パロディチャンネル」展開中。

(合成写真)を駆使する芸術家が増えた。ナチス批判のためヒトラーの写真を使う作品が国民に受けた。さて、日本はどうだったのか。第1次世界大戦が終了し、「大正ロマン」「大正デカダンス」という退廃主義がまん延していた。実は、03(明治36)年生まれのは父は、23年9月1日に起きた関東大震災のとき、20歳だった。浅草本所で両親が犠牲となった。以来、人間の命のはかなさを感じ、座右の銘を「無」とするに至っている。

私が美術大学に通う頃に、父から「大正デカダンス」として現在の日本に「ダダ」の芽は強かつた。若い頃から毛筆で書いた絵日記には、ヒトラーやルースベルトの似顔絵が描かれていた。真珠湾攻撃の東條英機首相の顔がよく似ていると感心したものだ。私の風刺精神と反骨精神は明らかに父のDNAだと思える。そんな私のパロディー作品が原告の写真家に盗作呼ばわりされ、法に訴えられるという、いわゆる「パロディ・モンタージュ写真訴訟事件」(71〜87年)が社会問題となつたのは、何かの因縁かもしれない。権力を風刺で批判する動きに少しでも尽力したいと思っているのだが、果たして現在の日本に「ダダ」の芽はあるのだろうか？